

角館樺細工伝承館：角館の職人による手仕事の歴史を伝える

角館樺細工伝承館は、この地域の主要な伝統工芸である樺細工を振興するため 1978 年に開館しました。開館当時、この伝承館は日本にわずか三つしかなかった伝統産業会館のうちの一つでした。

角館樺細工伝承館は、角館の伝統的な建築様式を用いて建てられた近代的な建物です。文化的・歴史的な資料の展示の他、樺細工の実演を行ったり、展示室で完成品やアート作品を展示したり、さまざまな特別な文化展示を開催したりしています。

樺細工に加え、この伝承館では白岩焼など他の工芸品も展示しています。白岩焼という青磁器の独特な様式は 1771 年に初めてこの地域にもたらされました。透明な漆を用いて木地が見えるようにつくられた塗り物の一種である角館春慶や、イタヤカエデの細い帯でかごなどの道具を作る地元の工芸であるイタヤ細工の作品も展示されています。これらの二種の工芸は 1790 年頃に生まれたとされています。角館樺細工伝承館では、ワラ、ツル、樹皮で作られた履物やかごなどの魅力的な地元産工芸品を購入することができます。

来館者に地元の工芸の伝統についてより深く知ってもらうため、伝承館では数種類の工芸ワークショップを開催しています。専門スタッフの指導の下で、小さな樺細工の壁掛けやイタヤ細工の馬を作ることができます。